

教育研究業績書

令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日

氏名 ○川○夫 印

教育上の能力に関する事項

事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例 ※大学・短期大学・大学院などの高等教育機関において授業科目を担当している教員が、学生の理解を図るため、工夫を凝らした分かりやすい授業を実施している場合、その内容を記載すること。 (例) ・ I C T 等を活用した授業方法 ・ 学生の授業外における学習効果促進のための取組 ・ 授業内容の W E B 上での公開	平成 25 年 4 月～	授業において配布する資料を事前に W E B 上に掲載し、学生が予習・復習に活用できるようにしている。 グループワーク中は常に机間巡回を行い、それぞれに応じた個別指導をこまめに行い、各学生の能力向上を目指した。 また、オフィスアワー及びメールにて、学生からの相談を随時受け付けている。
2 作成した教科書・教材 ※教員が、学生の理解を図るために作成し、大学での授業や教職指導などにおいて活用している教科書や教材等を記載すること。	平成 25 年 4 月～	生徒指導・教育相談の授業において、○○に関する事項を取りまとめた教材を作成し、授業において活用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ※教員が、学生の理解を図るに行っている教育上の取組（大学での授業や教職指導などを通じた取組）に対して、大学等から 特 に 高 い 評価を受けたものがあれば記載すること。 (例) ・ 各大学における自己点検・自己評価での評価結果 ・ 学生による授業評価アンケート等の結果、教員相互による評価結果	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	学生による授業評価アンケートでは、ほぼすべての項目が学科平均を上回り、高評価を得ている。 ○○大学より、平成 2 8 年度優秀教員表彰を受賞した。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ※教員の、学校現場等での教育に関する取組の中で学生の理解を図ることに資するものがあれば記載すること。 (例) ・ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校での教育実績（出前講座など） ・ 大学から受け入れた教育実習生等に対する指導	平成 26 年 7 月 平成 26 年 4 月～	○○高等学校 3 年生を対象とした大学講義体験授業（心理学）の講師を務めた。 △△県教育委員会義務教育課において幼稚園担当の指導主事として県内の幼児教育の充実発展に向けた施策や指導を行った。

5 その他		特記事項なし
※教員が学生の理解を図るために行っている取組のうち、上記に該当しないものを記載すること。 (例) ・大学教育改善に関する団体等での活動の概要		
職務上の実績に関する事項		
事項	年 月	概要
1 資格, 免許	平成 28 年 3 月 平成 28 年 3 月	幼稚園教諭一種免許状(免許状番号: 平〇幼一普第◇号) 〇〇心理士(登録番号: 0000)
※教員が、担当授業科目と関連のある教員免許等の資格、免許等を有している場合は記載すること。教員免許状等の資格を記載するに当たっては、その登録番号等も併記すること。		
2 学校現場等での実務経験	10 年	〇〇幼稚園 教諭(平成〇年 4 月～△年 3 月) △△幼稚園 教諭(教務主任)(平成□年 4 月～◇年 3 月)
※教員が、学校現場等において担当授業科目と関連のある実務経験(職歴)を有している場合は、「年月」にその実務経験の年数を、「概要」に時期、勤務先と主な職務内容等を記載すること。		
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 28 年 11 月 平成 30 年 11 月 平成 28 年 4 月～現在に至る	〇〇市教育委員会主催の〇〇研修会の研修講師を務めた。 〇〇幼稚園の職員向け□ 講座の講師を委嘱され、△△に関する講習を行った。 平成28年より□□市教育委員会の教育委員を務め、教育委員会における業務全体に広く関わるとともに、市内のこども園・幼稚園・小学校・中学校への学校訪問等を通して学校現場の現状について把握している。
※教員の、学校現場等での教育に関する取組の中で担当授業科目と関連のあるものがあれば記載すること。 (例) ・研究指定校での教育課程の研究開発 ・教員を対象とした研修等の講師の経験 ・教育委員や学校評議会の委員等の経験		
4 その他		特記事項なし
※担当授業科目と関連のある職務上の実績のうち、上記に該当しないものを記載すること。		
担当授業科目に関する研究業績等		
※以下の点に十分に留意の上、担当可能な授業科目に関連する研究業績等をそれぞれ記載すること。 <全般的事項>		

(教育実践記録等) 1. ■■■■	共	平成○年 ○月	★★★	(抽出 不可) (9)	(執筆担当部分:問題の所在と目的、 考察と論文全体の構成) 著者: ○川○夫、△山△成 ○○する体験から展開された共活動 からの学びについて探った。<u>共通の 目的をもって取り組む中で、「協同 性」など様々な「幼児期の終わりま でに育ってほしい姿」と関連する姿 が見られた。体験が「主体的・対話 的で深い学び」へと繋がるために は、・・・。</u> (執筆担当部分:各領域の観点から の執筆と統括的役割) 著者: ○川○夫、△山△成
---------------------------------	----------	--------------------	------------	----------------------------	--